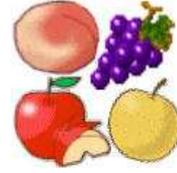


平成25年度 果樹情報 第14号

(平成25年10月8日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況（9月後半：果樹研究所）

9月4～6半旬の平均気温は、4半旬が21.0℃で平年より0.3℃高く、5半旬が20.4℃で平年より1.4℃高く、6半旬が17.2℃で平年より0.9℃低い状況でした。この期間の降水量は55.5mmで平年の70%でした。

2 土壌の水分状況（10月1日現在）

果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmが2.7、40cmは2.0、60cmは2.1で、深さ20cmは乾燥状態、40cm以下は適湿となっています。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) なし

ア 主要品種の収穫期と果実品質

「豊水」の収穫始めは9月12日で平年より3日早く、収穫盛りは9月15日で平年より6日早い状況でした。また、果実の大きさは355g（平年426g）で平年より小さく、糖度は12.4（平年12.7）でほぼ平年並みの状況でした。

「二十世紀」の収穫始めは9月18日で平年より1日遅く、収穫盛りは9月20日で平年より3日早い状況でした。また、果実の大きさは409g（平年388g）で平年より大きく、糖度は11.4（平年11.1）でほぼ平年並みの状況でした。

イ 「ラ・フランス」の成熟経過

果肉硬度は満開後145日に低下しましたが、その後はほぼ平年並に推移しています。デンプン指数はほぼ平年並に推移しています。

※ 西洋ナシのデンプン指数：染色が濃いほど未熟。（指数1：10%以下染色、指数2：30%程度染色、指数3：50%程度染色、指数4：80%程度染色、指数5：100%染色）

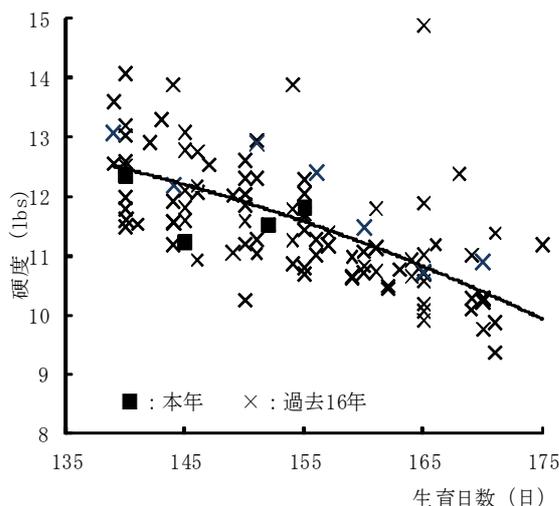


図1 生育日数と果肉硬度の関係

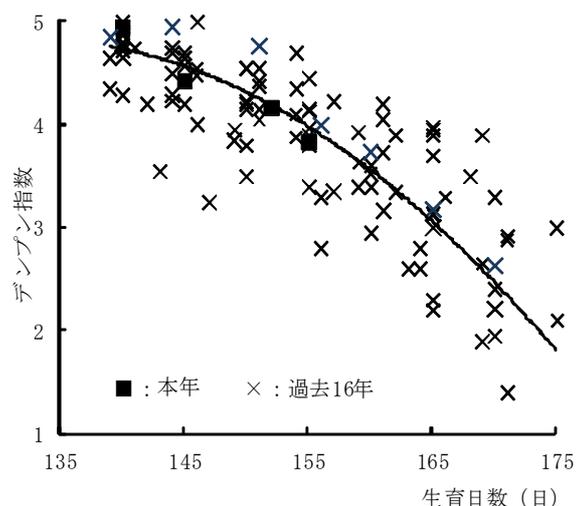


図2 生育日数とデンプン指数の関係

(2) りんご

ア 果実肥大 (10月1日現在)

「ふじ」の果実肥大を暦日で比較すると、縦径が79.2mmで平年比100%、横径が86.1mmで平年比100%と平年並みの状況です。

また、満開後日数による比較でも、ほぼ平年並みの状況です。

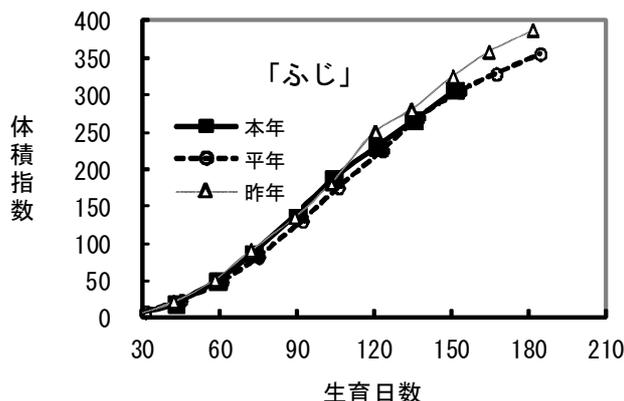


図3 りんごの果実肥大 (満開後日数比較)

イ 「ふじ」の果実成熟 (満開後151日現在)

10月1日における「ふじ」の成熟状況は、硬度は15.6ポンドで平年より低く、デンプン指数は3.0で平年並みの状況です。また、糖度は11.5で平年並み、アントシアニン含量は平年よりやや多く、クロロフィル含量は平年より少ない状況です。

※ りんごのデンプン指数：染色が濃いほど未熟 (指数1：100%染色、指数2：果芯部以外染色、指数3：果芯部の外側まで染色せずデンプンが消失しており果実切断面の50%以上が染色、指数4：果実切断面の20~50%が染色、指数5：染色部位はほぼ果皮直下に限られる)。

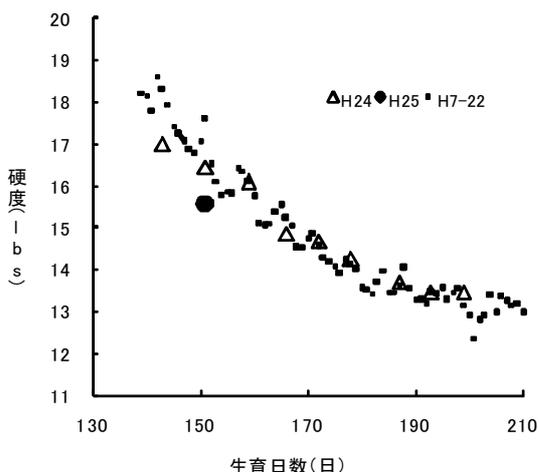


図4 生育日数と果肉硬度の関係

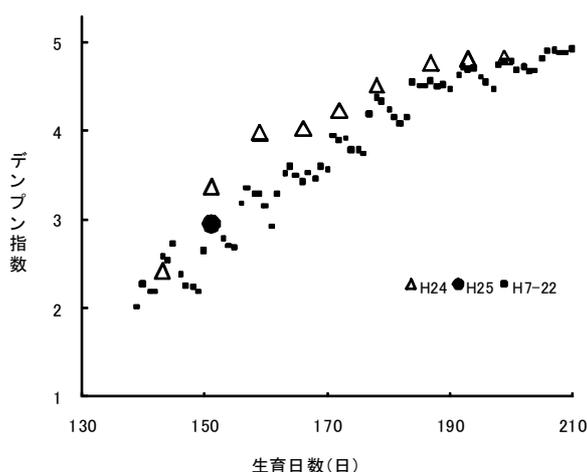


図5 生育日数とデンプン指数の関係

4 栽培上の留意点

(1) なし

ア 「ラ・フランス」の収穫

収穫基準では、デンプン指数が1.5~2を収穫適期としていますが、高温で推移した年のデンプン指数は高めで推移する傾向があるため、デンプン指数は通常年よりも高めで収穫しましょう。今年は、デンプン指数3.5を目安に収穫してください。

なお、デンプン指数が3.5となるのは生育日数でおよそ160日頃 (果樹研究所では10月2日頃) と見込まれます。収穫が遅れると果肉褐変や粉質化など品質や食味低下の原因となるので注意しましょう。

(2) りんご

ア 「ふじ」の収穫前管理

本年の成熟は平年よりやや進んでいる傾向にあります。早めに反射シートを敷設し、着色

管理を実施しましょう。葉摘みは、1回目で果実に直接接触するような葉を中心に行い、10月20日以降、玉回しとあわせて再度丁寧に実施しましょう。

イ 中生種の収穫

地色、着色、デンプンの消失状況、果実の肉質、食味等から総合的に判断し、品種特性に応じて適期収穫を行いましょう。昨年と比較して成熟はやや進んでいる傾向にありますので、早めの着色管理と適期収穫に努めましょう。

(3) ぶどう

ア 基肥

基肥の施用は、落葉前の10～11月にかけて行いましょう。「巨峰」の成木における施肥量は、チッ素が6 kg/10a、リンが8 kg/10a、カリが8 kg/10aを目安とします。

なお、樹勢が強い場合は、チッ素の施用量を減量しましょう。また、堆肥等により投入される成分量は差し引いて施用しましょう。油粕などの有機質肥料は分解に時間がかかるので、10月中旬までに施用してください。

イ 縮伐・間伐

縮伐・間伐は収穫終了直後に行うと、枝の混み具合が確認できるとともに、残った枝に良く光が当たるようになり養分蓄積にも有効です。樹冠が拡大し枝が混み合ってきた場合、早めの間伐や縮伐を心がけましょう。なお、縮伐した樹は、地上部と地下部のバランスをとるために、断根の実施が有効です。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア モモせん孔細菌病

県内の発生量は、平年よりやや多くなると見込まれ（病虫害防除所による9月17日付、病虫害発生予察情報）、さらに9月16日の台風18号による風雨で病原菌の感染が助長された可能性があります。本病の発生が多い園では3回目の秋季防除を実施し、翌年への越冬菌密度の低下を図りましょう。

イ ナシ黒星病

冷涼多雨な気候になると翌年の伝染源となる芽への感染が増加するため、本病の発生が多かった園では越冬菌密度の低下を図りましょう。2回目の秋季防除を実施していない園では、できるだけ速やかに実施してください。また、枝の先端まで薬液が十分量到達するように散布しましょう。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gijyutsujyouchou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>